
偽者の贗作者

荒井スミス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽者の贗作者

【Nコード】

N3878N

【作者名】

荒井スミス

【あらすじ】

エミヤ シロウの力を手に入れた転生者がどうなっていくか？
そしてどうなってしまったのか？

これはそんなただの可能性の一つの話。

これはArcadiaで書いていたものを使い試しに投稿した代物です。

（前書き）

こちらで初めての投稿になります荒井スミスと申します。

この話はArcadiaのチラシの裏に私が掲載している短編の一つです。

始めに言っておきます。

この話は酷過ぎます。

あまりに酷過ぎます。

ストレスというか・・・気分転換というか・・・黒い衝動というか・・・

つまりこの話は完全な自慰行為です。

だから存分に叩いてくれて結構です。

まあとにかく、荒井スミス劇場の始まりです。

むかしむかし、ある世界が苦しんでいました。

その世界は悪い魔物がみんなを苦しめていました。

そこに一人の勇者さまが現れました。

赤い鎧と白い髪、焼けた肌の勇者さまでした。

勇者さまは白い剣と黒い剣の二つを取り、魔物をドンドン倒してくれました。

勇者さまはたくさんの剣を出して、それを魔物達にガンガン飛ばして倒しました。

勇者さまは剣の世界を創り出して、たくさんの剣で魔物達をグチャ

グチャにして全部倒してくれました。

みんなが勇者さまに感謝をしました。

勇者さまは世界に残ってこの世界を守ってやるつと言いました。

みんなは勇者様に感謝してありがとうございました。

こうして世界は平和になりましたとさ。

めでたしめでたし。

あーあ、そうならばよかったのね。

それからしばらくして、勇者さまは変わってしまいました。

勇者さまは美味しいものを独り占めして食べてしまいます。

守ってやるのだから俺に食わせろと言いました。

みんなはメソメソ泣きました。

勇者さまは宝物をみんなから奪って自分の物にしてしまいました。

守ってやるのだから俺によこせと言いました。

みんなはシクシク泣きました。

勇者さまは綺麗な女の人を集めて乱暴をしました。

守ってやるのだから俺に従えと言いました。

みんなはワンワン泣きました。

勇者さまはもう勇者さまではありませんでした。

みんなは勇者さまが恐くて逆らえませんでした。

そんな時、またある人が来ました。

その人は勇者さまにそっくりでした。

勇者さまはその人を見て驚きました。

お前は誰だお前も俺と同じ奴なのかと言いました。

その人は驚く勇者さまに言いました。

私は私の偽者を消しに來ただけだと言いました。

勇者さまはもの凄くおびえて、その人に剣を向けました。

勇者さまは白い剣と黒い剣の二つを手に取り、その人を殺そうとしました。

でもその人も同じ剣を出して、勇者さまの剣をあっさり壊しました。

勇者さまはたくさんの剣を出して、それをその人にガンガン飛ばして殺そうとしました。

でもまた同じように剣を出して、勇者さまの剣を全部ボロボロに壊しました。

勇者さまは剣の世界を創り出して、たくさんの剣でその人をグチャグチャにして殺そうとしました。

でもその人も同じ世界を創り出して、勇者さまの世界を簡単に滅ぼしてしまいました。

勇者さまは言いました。

お前と同じ力なのに、どうして俺が負けるんだと言いました。

その人は言いました。

お前は私の薄汚い紛い物だからだと言いました。

勇者さまはびーびー泣いて命乞いをしました。

殺さないでくれ、お願いしますとなさけなく頭を下げました。

でもその人はすぐに勇者さまを殺してくれました。

よ
か
っ
た
よ
か
っ
た
。

でもまだその人がいました。

みんなはその人に出て行けと言いました。

勇者さまと同じ姿だからそう言うのは当然です。

その人は悲しい顔で笑って言いました。

言われずとも私は出て行く、また処分しに出かけるから。

そう言ってその人は何処かに行ってしまった。

よかったよかった。

みんなは平和を喜び、もう勇者さまが来ないように願いました。

そしてその願いは叶いました。

また魔物が襲って来たのです。

みんなはまた、誰かが助けしてくれるように祈りました。

そしてみんなの願いどおり、勇者さまはもう来ませんでした。

みんなみんな魔物に殺されて、食べられて、その世界は滅んでしまいましたとさ。

めでたしめでたし。

（後書き）

ふう、気持ちいい……。あーすっきりした。

今回の物語はDODの武器物語に大きく影響されています。

あのドロドロした物語がたまらなく大好きです。

どうしてこんな作品を書いたのか？

一つ目の理由は他の作品でも言いましたが、アーチャーの劣化主人公の転生者の話があまりに多すぎたためです。

その不満を今回この作品に思いつきりぶつけました。

確かに彼は魅力的な人物です。

しかしだからといって簡単に真似をしてよいものでしょうか？

しかも自分好みに能力のデメリットをなくすのはいいことでしょうか？

言っておきますが、そういう作品を完全に否定するわけではありません。

中には面白いものも確かにあります。

ですが最近そういうのは稀になり、近頃は簡単に話を書いてすぐに投げ出す作品が増えました。

まあ、だからこそエミヤ シロウという存在が益々綺麗に輝くと思いますし、今回のような話も生まれたのですが。

それが今回の話を書いた理由の一つ。

もう二つ目は私の完全な気分転換です。

私は何故か綺麗な作品ばかり書いてしまいました。

ですがそれだとモチベーションが落ちません。

たまにこうした、救いの無いドロドロとした穢れた物語を書きたいのです。

そうして自分を刺激して私はやっと他の作品を書けるんです。

綺麗な話ばかりでは飽きが来る。

だから徹底的に穢れた話を書きました。

これから転生ものでエミヤを使おうと考えてる方。

注意しないと本物が来るかもしれないのでどうかお気を付けて！

今回は完全な私の我が侬と自己満足の作品につき合わせてしまい、
申し訳ありませんでした。

某理想郷でも書いてますので気が向いたらそちらもご覧ください。
それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3878n/>

偽者の贋作者

2010年10月9日16時58分発行